

農作物を食い荒らすイノシシやシカの捕獲が急増し、食害抑止に明るさが見えてきた。ただ食肉処理や流通の体制が十分でなく、大半が廃棄されている。対策の歯車をうまく回すには、野生鳥獣肉（ジビエ）の利用拡大が課題になっている。イノシシの2014年度の捕獲頭数は05年度の2.4倍、シカは3.1倍になった。自治体が対策を強化

目で見ると感じる経済

イノシシ、シカの捕獲急増

ジビエ利用拡大が課題

したため、農作物の鳥獣被害額は近年200億円程度で推移してきたが、15年度は176億円に減った。鳥獣肉の加工処理施設は16年時点で全国552カ所。北海道が最多の93に上り、兵庫県が41、宮崎県の29と続くが、少ない地域も多い。全体の約8割が従業員2人以下で、捕獲の急増に能力が追いついていない。政府は18年度にモデル地区を選び、処理施設の大規模化支援や、加工肉の規格統一に乗り出す。ジビエの流通、消費拡大を山間部の所得増加にも結びつける考えだ。

①ジビエとは、何のことでしょうか。

[]

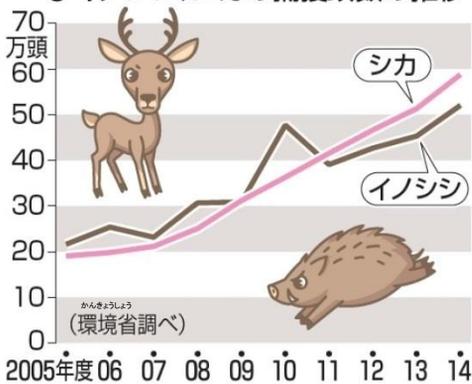
②2005年から2014年の10年間でイノシシとシカの捕獲頭数は何倍に増えましたか。

イノシシ [] 倍
シカ [] 倍

③イノシシ、シカの捕獲頭数の推移のグラフと農作物の鳥獣被害額のグラフを比べて、気付いたことを書きましょう。

[]

●イノシシ、シカの捕獲頭数の推移

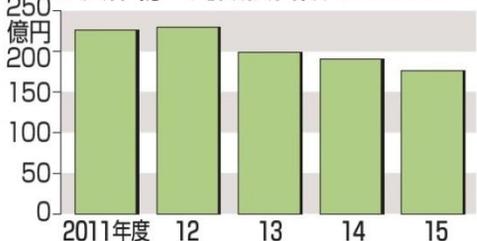


●地域別の野生鳥獣の処理施設数

北海道	93
兵庫県	41
宮崎県	29
岡山県	24
岐阜県	23
大分県	22
長野県	21
島根県	21
高知県	21
和歌山県	20
...	...
全国合計	552

(16年、厚生労働省調べ)

●農作物の鳥獣被害額 (農林水産省調べ)



2017年7月15日 朝刊

年 組 名前